

# 編集後記

## 研究室短信

本年度は、東日本大震災後の巨大なショックと混乱の只中からのスタートとなりました。つくば市に立地する本学でも震災の傷跡は大きく、年度開始前の春休みには学生は人文社会棟に立ち入れず、蔵書がフロアに散乱した図書館の完全な復旧は5月にずれ込むといったありさまでした。書棚が破壊され、ドアが開かなくなった教員の研究室もありましたし、つくば在住の学生・教員は、長い地区では1週間ほどの断水・停電にも見舞われました。情報が入りにくい中、断片的に伝わる隣県の原因事故の情報と放射性物質の飛散に戦慄した日々の恐怖感は、いまなお忘れることができません。激甚な被害を蒙った被災地と同列に論じることにはできませんが、学問ができる日常の幸せをあらためて噛みしめる日々を経験し、社会の中での大学のあり方という大きな宿題を、教員・学生ともに、これまで以上に真に迫ったものとして考えざるを得ない1年間となりました。

また、研究・校務・教育の各面で、2000年代の社会学研究室の中核を担ってきた好井裕明教授が、今年度限りで本学から転任することになりました。またひとつの時代の節目を迎え、さらに若返った感のあるスタッフ一同で、これまでの良き伝統を守りつつ、大学のグローバル化など大きく変化する環境に対応した社会学研究室となるよう、気持ちを引き締めてまいります。

＊

大学院人文社会科学研究科社会科学専攻における中間評価論文（修士論文）の提出者と題目は以下のとおりである。

- 高橋 航 『不登校の友だち関係物語 —NPO法人フリースクール「東京シュール」を事例として』
- 永田 大輔 『おたく／オタクの誕生 —1970年代後半－1980年代のアニメ雑誌上でのビデオの消費実践からみる文化社会学的研究—』
- 木崎 智大 『スポーツヒーローが語りかけるもの』
- 日笠 花衣 『現代日本におけるロマンティック・ラブ・イデオロギーの諸相 —国際結婚を志向する日本人女性の言説分析—』
- 東谷 蘇遠 『北京の高校生における学歴社会観に関する研究』

平成23年度社会学研究室の各教員の学類および大学院において開設した授業科目は次の通りである。（社会学類／大学院人文社会科学研究科）

全 教 員＝社会の表象—社会学データ入門—／社会学基礎理論

奥山 敏雄＝病と死の社会学, 社会学演習Ⅱ／医療社会学Ⅱ, 医療社会学演習Ⅱ

土井 隆義＝犯罪社会学Ⅰ，21世紀の中国——現代中国の諸相，社会学研究法，社会学演習Ⅶ／逸脱行動論Ⅱ，逸脱行動論演習Ⅱ

黄 順姫＝スポーツ文化論，社会学演習Ⅴ／文化社会学Ⅱ，文化社会学演習Ⅱ  
大学院修士課程教育研究科にて，文化社会学Ⅰ～Ⅲ，公民教育研究法Ⅰ～Ⅲ

好井 裕明＝エスノメソドロジー，社会学演習Ⅷ／社会問題論Ⅱ，社会問題論演習Ⅱ

五十嵐泰正＝現代社会論，都市社会学，社会学演習Ⅳ／都市社会学Ⅱ，都市社会学演習Ⅱ

樽川 典子＝ジェンダー社会論，社会調査実習Ⅰ／家族社会学Ⅱ，家族社会学演習Ⅱ

野上 元＝メディアと情報化の社会学，社会学演習Ⅰ／歴史社会学Ⅱ，歴史社会学演習Ⅱ

森 直人＝社会階層論，社会学演習Ⅸ／労働社会学Ⅰ，労働社会学演習Ⅰ  
大学院修士課程教育研究科にて，社会学演習Ⅰ～Ⅲ，公民教育研究法Ⅰ～Ⅲ

葛山 泰史＝社会学基礎論，現代社会学の系譜，社会学演習Ⅲ，社会学外書購読／知識社会学Ⅱ，知識社会学演習Ⅱ

このほか学類では，卒業論文演習が各教員によって開講された。

他専攻所属の教員によって，社会学類および大学院で次の授業科目を担当していただきました。

荻野 祥三＝印刷文化論（比較文化学類と共通）

仲田 誠＝情報文化概論A，情報文化概論B（比較文化学類と共通）

海後 宗男＝コミュニケーション論A，コミュニケーション論B（比較文化学類と共通）

木下 太志＝Population and Development：人口と開発（国際総合学類と共通）

前川 啓治＝文化・開発論（国際総合学類と共通）

松村和則，清水 論＝スポーツ社会学（体育専門学群と共通）

今年度非常勤講師として，次の諸先生にご出講をいただきました。篤くお礼申し上げます。

荻野 昌弘（関西学院大学）＝理論社会学〔社会学類〕

塩原 良和（慶應義塾大学）＝国際社会学〔社会学類〕

坂田 勝彦（東日本国際大学）＝アイデンティティの社会学〔社会学類〕

立岩 真也（立命館大学）＝社会調査方法論Ⅰ〔大学院人文社会科学研究科〕

今年度の研究室の人事異動は次の通りである。（ ）内は前職などを示す。

平成24年3月 好井 裕明（教授） 日本大学文理学部社会学科へ転出